

# 和歌山県の地震

令和5年9月

## 1. 和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・ 1
概況	・・・・・・・・ 1
断面図	・・・・・・・・ 2
和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・ 3
震度分布図	・・・・・・・・ 4

## 2. 地震一口メモ

緊急地震速報の改善と訓練のお知らせ	・・・・・・・・ 6
-------------------	------------

\* この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。

\* この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。

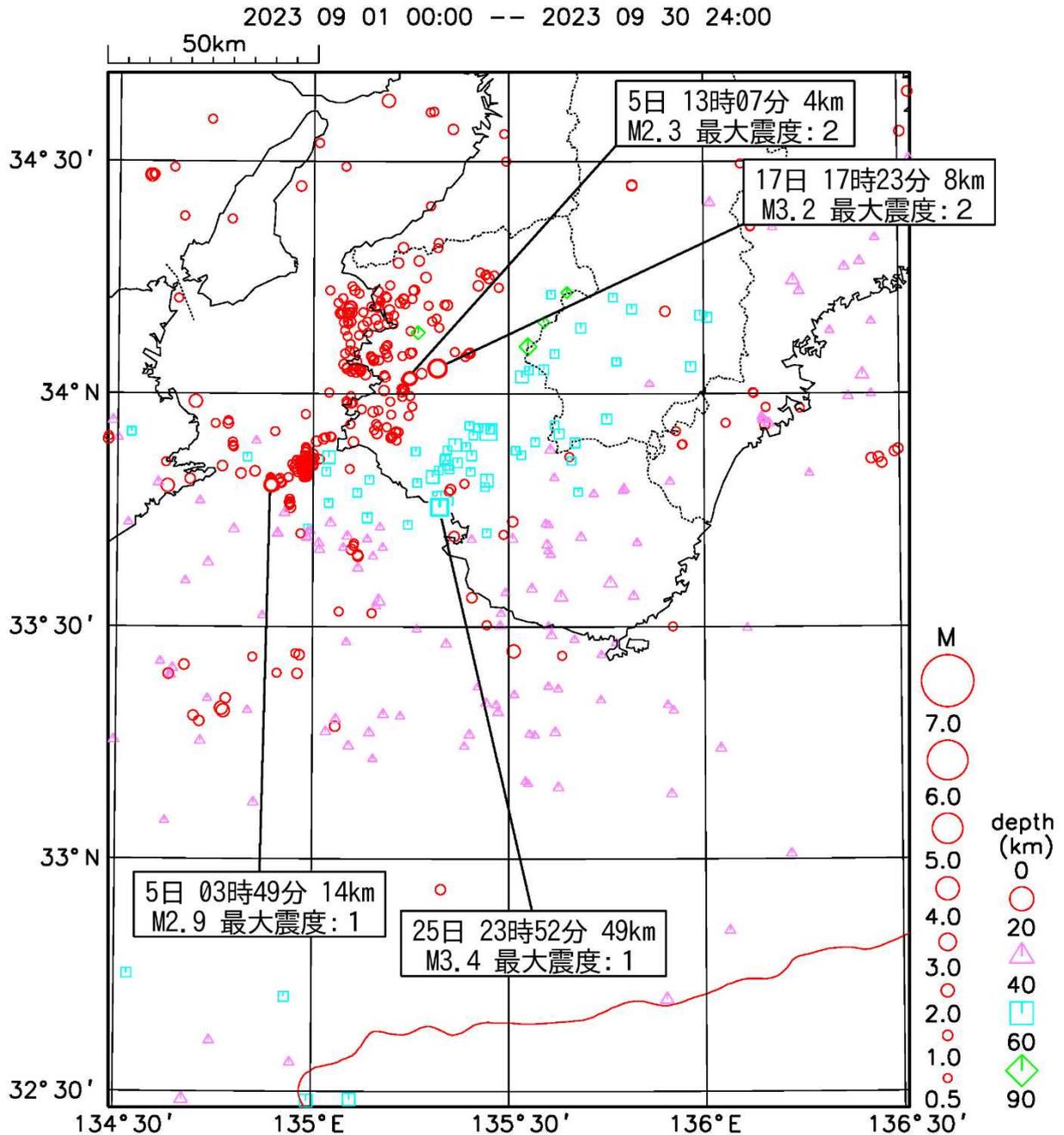
\* 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

\* この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図25000（行政界・海岸線）を使用しています。

和歌山地方気象台

# 1. 和歌山県の地震活動

## 【震央分布図】



震央分布図は地震が発生した場所を地図上に描画したものです。

シンボルマークの大きさで地震の規模（マグニチュード）を、シンボルマークの形と色で震源の深さを表しています。また、赤線は海溝軸（南海トラフ）の位置です。

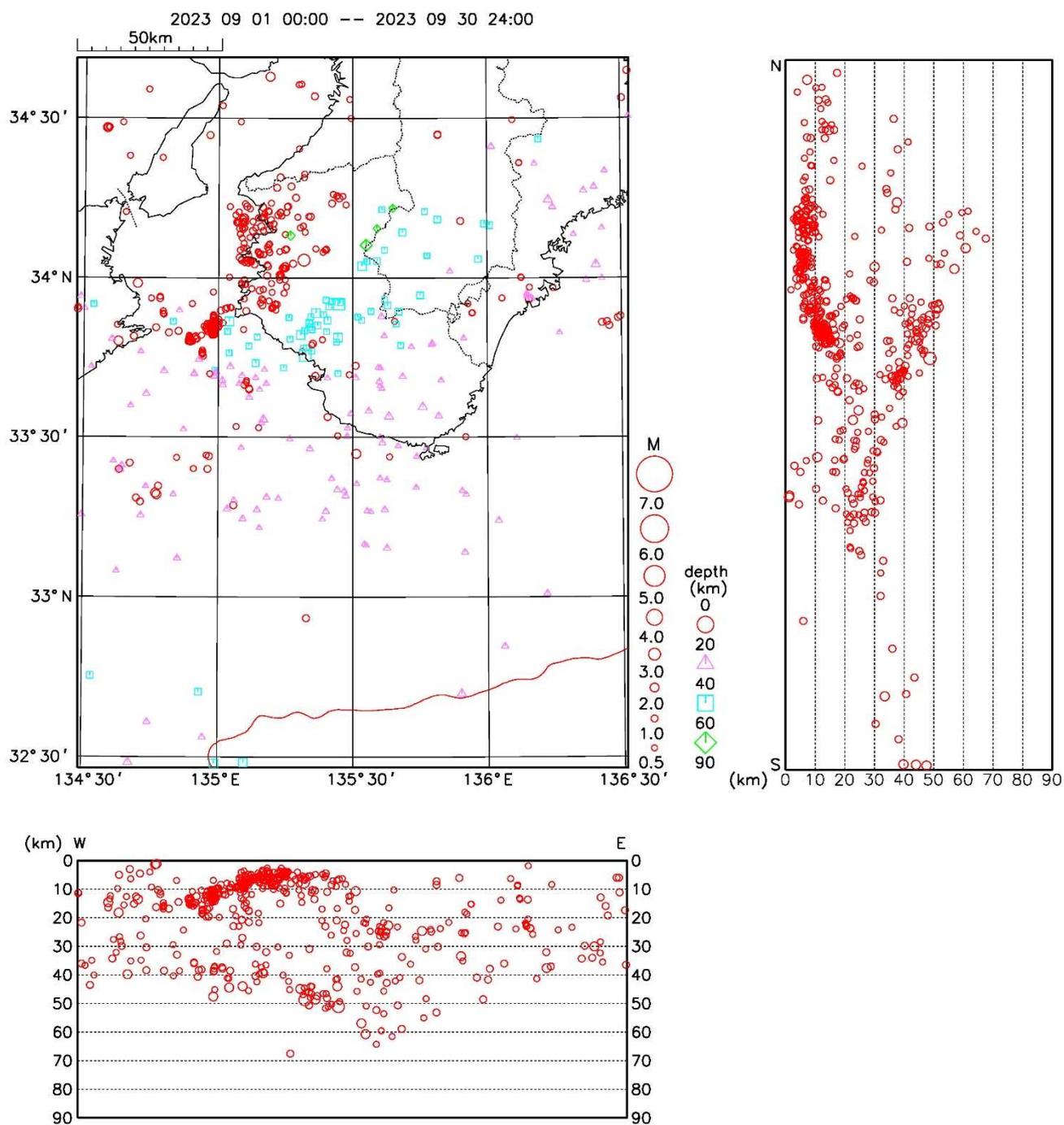
図中の吹き出しは、和歌山県内で震度1以上を観測した地震および震央分布図内で最も規模の大きな地震を示しており、日時、深さ、マグニチュード、最大震度を記載しています（最大震度は、和歌山県内とは限りません）。

## 【概況】

9月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード（M）2.0以上の地震は31回（前月は22回）でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、25日23時52分の紀伊水道の地震（深さ49km、M3.4）でした。この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。

9月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、4回（前月6回）でした。

【 断面图 】



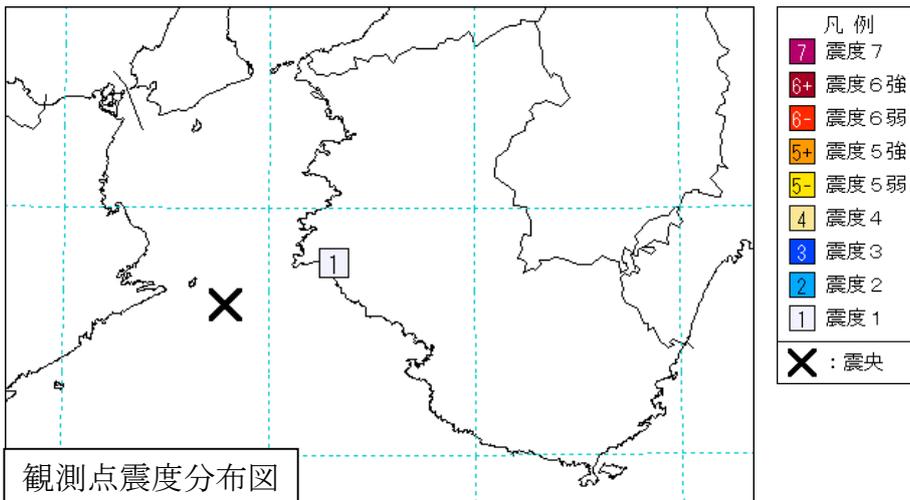
## 【 和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧 】

発震時（年月日時分） 各地の震度（和歌山県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2023年09月05日03時49分 和歌山県	紀伊水道 震度 1：御坊市菌	33° 48.2' N	134° 53.5' E	14km	M2.9
2023年09月05日13時07分 和歌山県	和歌山県北部 震度 2：湯浅町青木*	34° 02.0' N	135° 14.7' E	4km	M2.3
2023年09月17日17時23分 和歌山県	和歌山県北部 震度 2：湯浅町青木* 震度 1：和歌山市男野芝丁, 和歌山市一番丁*, 御坊市菌, 御坊市湯川*, 和歌山広川町広* 日高川町土生*, 紀美野町下佐々*, 有田川町清水*, 有田川町下津野* 有田川町中井原*	34° 03.3' N	135° 19.0' E	8km	M3.2
2023年09月25日23時52分 和歌山県	紀伊水道 震度 1：御坊市菌, 御坊市湯川*, 湯浅町青木*, 由良町里*, みなべ町土井, 日高川町土生* 白浜町日置*	33° 45.4' N	135° 19.4' E	49km	M3.4

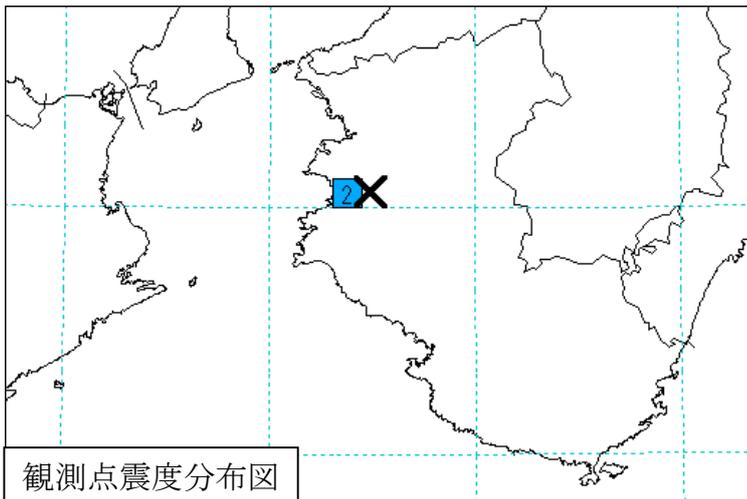
地点名の最後に\*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

【震度分布図】

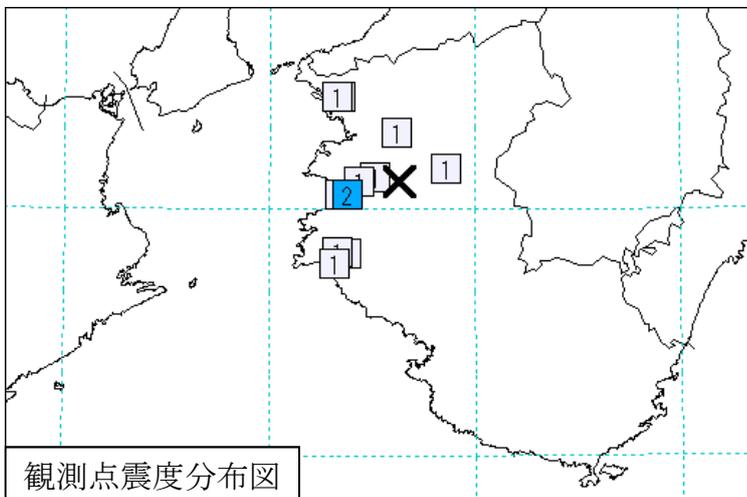
2023年09月05日03時49分 紀伊水道の地震（深さ14km、M2.9）



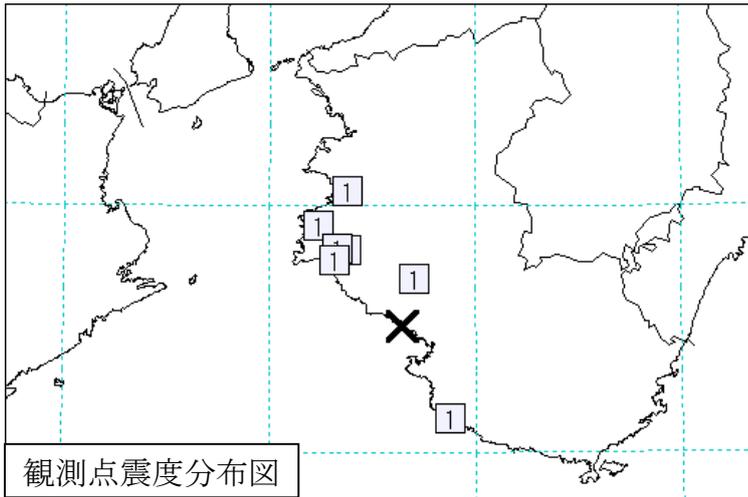
2023年09月05日13時07分 和歌山県北部の地震（深さ4km、M2.3）



2023年09月17日17時23分 和歌山県北部の地震（深さ8km、M3.2）



2023年09月25日23時52分 紀伊水道の地震（深さ49km、M3.4）



## 2. 地震一口メモ

### 緊急地震速報の改善と訓練のお知らせ

#### ●緊急地震速報の技術改善について

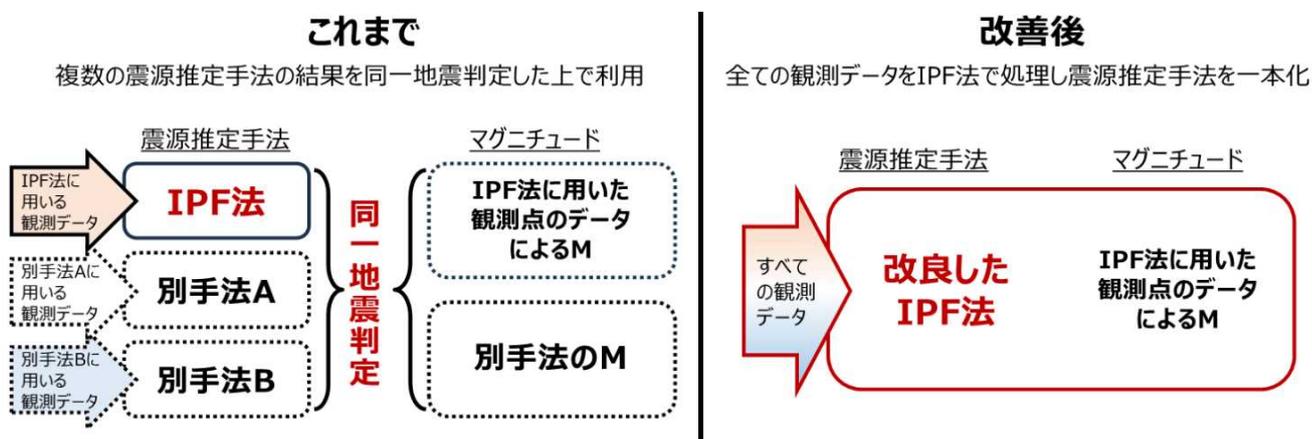
緊急地震速報の技術改善を行い、令和5年9月26日から運用を開始しました。

これまで、緊急地震速報の震源推定は、利用する観測データに応じた複数の手法を併用し、その複数の震源推定結果が同一の地震であるか否かを判定して、発表に用いる震源やマグニチュードを推定していました。そのため、離れた場所で同時に複数の地震が発生した場合など、複数の震源推定手法で異なる震源が推定された場合に、同一の地震であるか否かの判定を誤って処理した結果、揺れを過大予測してしまう場合があるという課題がありました。

これを改善するため、緊急地震速報の震源推定手法を一本化し、全ての観測データを改良した震源推定手法で処理することで、同一地震判定を用いずに震源とマグニチュードを推定するようにしました。

【気象庁HP】報道発表資料

[https://www.jma.go.jp/jma/press/2308/29a/EEW\\_kaizen\\_202308.html](https://www.jma.go.jp/jma/press/2308/29a/EEW_kaizen_202308.html)



震源推定処理の流れ図（報道発表資料より）

#### ●緊急地震速報の訓練のお知らせ

緊急地震速報の全国的な訓練を11月2日（木）10時00分頃に実施します。

気象庁は国の機関や地方公共団体（全国瞬時警報システム経由）、民間の緊急地震速報を提供する配信事業者のうち、訓練への参加を計画している機関や団体に対して、訓練用の緊急地震速報を配信します。訓練に参加する地方自治体の防災無線や、一部商業施設などで緊急地震速報が放送されることがあります。テレビやラジオ、携帯電話・スマートフォンの緊急速報メール／エリアメールで訓練用の緊急地震速報が放送又は報知されることはありません。

地震による揺れから身を守ることが、地震・津波防災の第一歩です。緊急地震速報は見聞きしてから強い揺れに襲われるまで数秒から数十秒しかありません。その短い間に慌てずに身を守るなどの対応をとるためには、日頃からの訓練が重要です。周囲の状況により身を守る行動は異なります。気象庁ホームページ（<https://www.data.jma.go.jp/svd/eeew/data/nc/koudou/koudou.html>）に具体的な行動例を掲載していますので、参考にしてください。

【気象庁HP】緊急地震速報訓練特設サイト

<https://www.data.jma.go.jp/eeew/data/nc/kunren/2023/02/kunren.html>